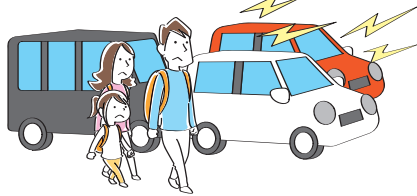


● 津波避難時の注意点

避難は徒歩が基本！



※自動車での避難は、要配慮者の有無や避難距離、安全面を十分に考慮してください。

海岸や河川には近づかない！



独自の判断で戻らない！



津波避難の三原則

想定にとらわれるな

被害の想定を超える災害が起こる可能性があることを忘れずに。想定にとらわれず、状況を見て避難をしましょう。

その状況下において最善を尽くせ

「自分は大丈夫」と思わず、その時々で最善の行動をとるようにしましょう。

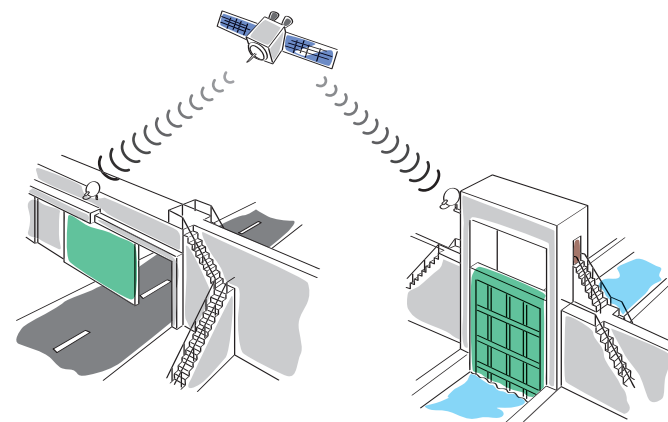
率先避難者であれ

まず自分の身を守ることを考えて、率先して避難をしましょう。避難をしている姿を見た人も避難をし、結果的に多くの人の命を救うことに繋がっていきます。

出典：群馬大学大学院 片田敬孝教授提唱「津波避難の三原則」

● 水門・陸閘（ゲート）自動閉鎖システム

東日本大震災時、水門・陸閘の閉鎖作業に関わり消防団員が犠牲となったことを踏まえ、岩手県では水門・陸閘（ゲート）自動閉鎖システムを導入しています。津波注意報など（Jアラート）が発表されると、サイレンなどによる周知の後、ゲートが自動で閉まります。地震発生時、水門近くにいる場合どのように避難すべきか確認しておきましょう。



Point 1 スピーカーや回転灯などで 海岸周辺にいる人に避難を知らせます！

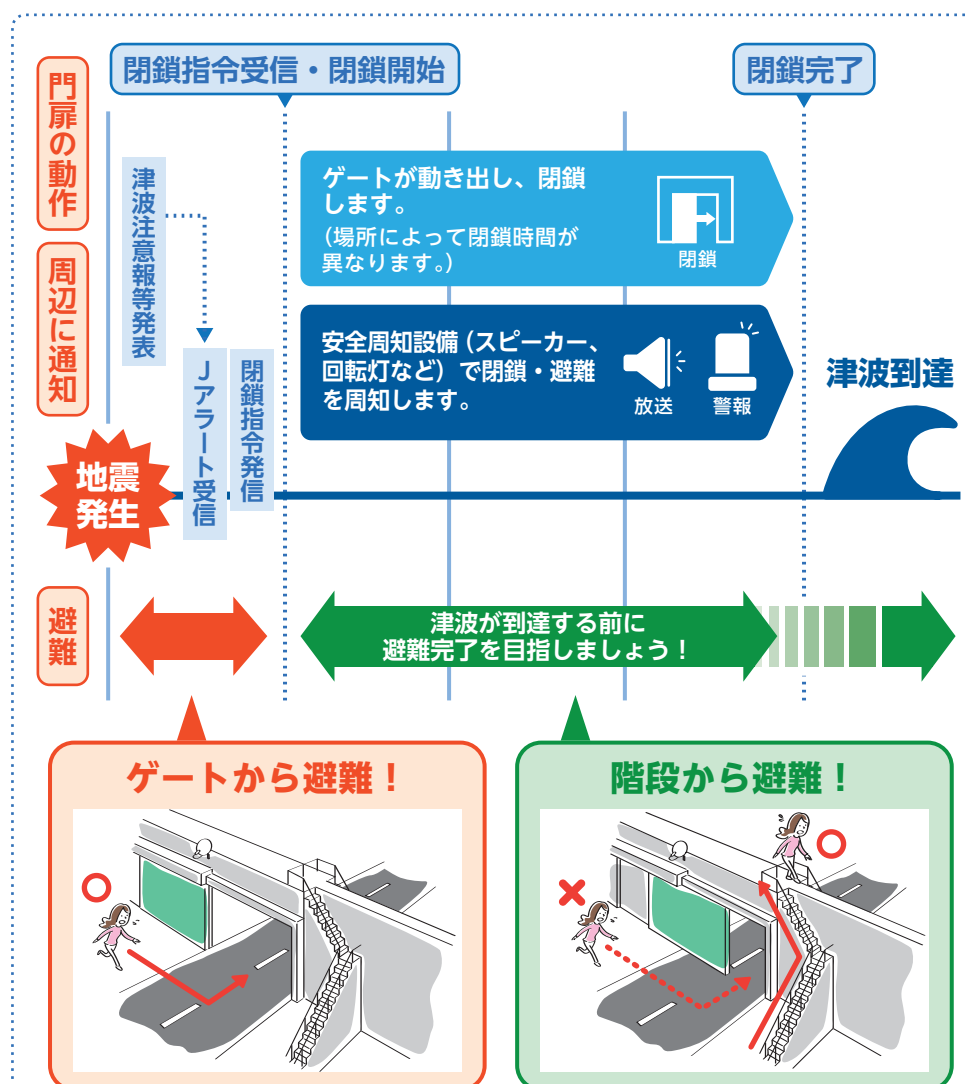
津波注意報などが発表されると、水門・陸閘は自動閉鎖システムにより、安全周知設備（スピーカー・回転灯など）が作動します。沿岸にいる人はすぐに海岸から離れて、避難場所や高台など安全な場所に避難してください。

Point 2 海岸にいる人は、 近くの階段などから避難！

ゲートが動き始めたら、付近の階段や乗り越し道路から避難するようにしてください。ゲートに小扉が設置されている場合は、小扉からでも避難可能です。ただし、小扉はゲートが完全に閉まってから利用してください。

Point 3 ゲートは、挟まれないように、 ゆっくり閉まります！

ゲートはゆっくり閉まり、挟み込み防止装置（人や車両の挟まりを検知する）が設置されています。しかし、ゲートに障害物が挟まってしまうと、閉鎖することができなくなります。車を停めたり物を置いたりしないようにしましょう。



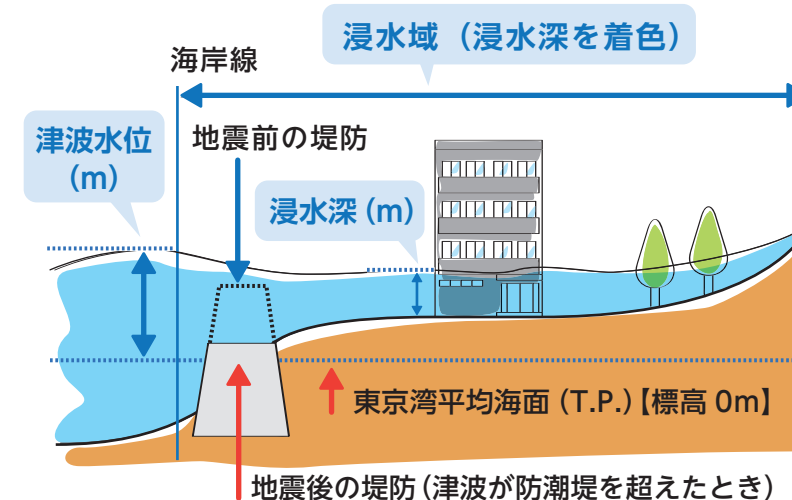
出典：岩手県

岩手県沿岸で起こる可能性がある津波



- 津波ハザードマップには、令和4年3月に岩手県が公表した最大クラスの津波の浸水想定を表示しています。
- 山田町に面している山田湾・船越湾では、「日本海溝モデル」、「東北地方太平洋沖地震」を想定したシミュレーションを行っています。それぞれのシミュレーション結果を重ね合わせて、最大の浸水範囲・深さを包括した津波浸水想定区域を表示しています。
- 津波による浸水範囲や浸水深、到達時間は目安であり、実際には色が塗られていないところでも津波が襲ってきたり、想定より早く到達したりする可能性があります。

津波浸水想定に関わる用語解説



浸水深

陸上で各地点の水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ。

最大津波水位

津波襲来時の沿岸部における津波水位の最大値。（東京湾平均海面（T.P.）で表示）

影響開始時間

地震発生から津波による水位変動（初期潮位から±20cm以上）が生じるまでの時間。

第一波到達時間

地震発生から第一波の最大津波水位になるまでの時間。

最大津波水位到達時間

地震発生から最大津波水位になるまでの時間。

3.11 東日本大震災

平成23年3月11日、震度5強の激しい揺れが発生した後、大津波が町に襲来しました。犠牲者は延べ800名を超え、家屋などが津波による浸水で大きな被害を受け、浸水域以外の家屋も火災で焼失するなど40近くの家屋が全壊しました。災害は忘れた頃にやってきます。過去の災害からの貴重な教訓をもとに、いざというときのため日頃から備えておきましょう。